

2021年度 長寿の里 事業報告

自令和3年4月 1日
至令和4年3月31日

2021年度 長寿の里 事業報告

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R2 実績	98.2	97.1	96.0	96.5	97.3	97.5	98.4	97.4	95.3	96.0	96.4	97.7	97.0
	R3 目標	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4
	R3 実績	96.7	97.6	96.6	97.6	98.3	94.0	95.7	98.7	98.4	98.6	98.4	97.9	97.4
短期	R2 実績	94.5	94.9	95.2	96.7	95.8	96.4	94.7	97.2	93.8	96.3	96.2	96.9	95.7
	R3 目標	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5
	R3 実績	96.6	97.8	100.1	101.7	100.4	100.7	101.0	104.1	99.1	97.1	100.2	100.6	100.0
通所	R2 実績	87.9	89.0	96.0	93.5	90.1	92.3	96.6	94.7	95.3	90.5	83.4	91.0	91.7
	R3 目標	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0
	R3 実績	92.5	89.4	93.5	93.7	95.3	95.8	95.6	95.0	95.6	94.3	92.7	93.0	93.9
ケアハウス	R2 実績	98.1	99.0	100.0	100.0	99.2	99.4	99.7	99.6	98.9	99.4	98.6	98.2	99.2
	R3 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R3 実績	97.9	95.4	94.2	99.2	98.9	100.0	99.2	95.3	95.1	95.0	95.4	99.9	97.1
サ高住	R2 実績	96.4	96.0	96.5	100.0	98.8	92.3	92.0	92.0	99.0	96.8	96.0	98.0	96.2
	R3 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	R3 実績	98.0	99.0	98.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.9	96.5	92.0	92.0	97.8
有料	R2 実績	94.7	94.5	97.4	96.5	93.3	89.3	88.0	92.0	92.0	88.0	90.0	92.0	92.3
	R3 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	R3 実績	90.0	96.0	94.0	94.2	95.8	96.3	95.8	96.0	95.6	93.4	92.0	100.0	94.9
訪問(件数)	R2 実績	3941.0	4155.4	4046.7	4316.5	4184.8	3774.7	3819.7	3686.0	4194.8	4009.8	3866.8	3960.3	3996.4
	R3 目標	4000.0	4130.0	4000.0	4130.0	4130.0	4000.0	4130.0	4000.0	4130.0	4130.0	3740.0	4130.0	4054.2
	R3 実績	3974.0	4220.8	4167.7	4253.0	4527.9	4411.3	4430.6	4329.8	4315.1	4152.2	3785.5	4495.0	4255.2
居宅(件数)	R2 実績	60.0	62.0	63.0	63.0	60.0	60.0	58.0	60.0	58.0	57.0	56.0	50.0	58.9
	R3 目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
	R3 実績	66.0	66.0	69.0	65.0	66.0	68.0	67.0	69.0	67.0	66.0	73.0	72.0	67.8
GH	R2 実績	94.3	97.1	100.0	100.0	100.0	96.9	99.6	100.0	99.5	96.2	98.4	100.0	98.5
	R3 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R3 実績	100.0	100.0	98.3	100.0	96.1	97.6	93.0	100.0	98.9	98.4	97.2	97.0	98.0
小多機	R2 実績	67.5	72.2	69.7	72.7	79.2	85.2	79.8	78.7	86.5	78.8	74.7	89.2	77.9
	R3 目標	80.0	80.0	80.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	87.5
	R3 実績	93.8	77.4	74.0	64.0	68.0	65.3	74.7	71.5	82.1	75.8	71.0	82.3	75.0

2021年度 鎌ヶ谷翔裕園 事業報告

施設基本方針

しゃかりき！
～ 直往邁進 ～

施設年度目標

- ・人財確保
- ・安定した運営と適正な経営
- ・鎌ヶ谷市地域への地域貢献活動

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】 年間平均稼働率 96.8% (従来) 97.9% (ユニット)

- ・前年比0.8%で目標達成となりました。要因としては、併設ショートステイを最大限に活用した入居前の空床期間削減を徹底するだけでなく、入居申請者への早めの事前調査、こまめな連絡による入居時期の調整などにより、空床期間を年度平均0.9日に抑えられた点が挙げられます。入院者は毎月5名前後となっており、コロナを始めとする感染症に対して医務課を筆頭に全職員が感染対策を継続していることで感染症蔓延を予防出来た事も目標達成の要因の一つと言えます。
- ・感染症に対する知識と予防策を職員に伝える機会を四半期に一度のペースで確保し、意識を高く持って感染対策にあたっていく事が出来ており、陽性者は度々出るもののクラスターには至らず最小限の影響に留める事が出来ました。フロア単位でのイベントの充実だけでなく、少人数ずつのドライブなども実施し、徐々にではありますが外出も行う事が出来てきており、お客様の活動範囲を広げる事が出来る様になり楽しみの拡充に繋がっております。

【短期入所】 年間平均稼働率 104.2%

- ・稼働率は前年度比で8.8%増と大幅に引き上げる事が出来て年度目標を達成する事が出来ました。営業方法を見直しつつベッドコントロールやお客様への空床の案内を工夫する事で、キャンセル待ちやベッドの空きがあるだけ利用したいと仰って頂ける方の確保が出来る様になってきた事が稼働率達成の要因として上げられます。また、本格的な野菜作りや収穫した野菜を調理して食べる等、楽しみやワクワクが継続するレクなども好評でした。

【通所】 年間平均稼働率 91.2% (定員35名)

- ・前年度比で0.1%増でしたが、目標の達成には至りませんでした。全国的な感染者の拡大の時期でも利用見合わせは前年度に比べると少なくなったものの、ワクチン接種後の副反応によるキャンセルや、終了者が想定よりも多かった事などが要因としてあげられます。営業目標は概ね達成したものの、新規獲得数が目標未達となり課題として残りました。
- ・記録の電子化の定着やインカム導入などで業務効率の見直しは一定の成果を得る事ができました。送迎業務委託を導入し、介護職員がお客様に集中して向き合える時間を確保する体制を整えており、次年度も更に発展的に取り組みます。

【居宅】

- ・施設入所や入院などで解約件数が多くありましたが、同時に新規依頼も多く、稼働率を維持する事が出来ました。
- ・各専門職と連携を図りながら、ご利用者に対して迅速に対応して個々に合ったケアプラン作りに努めました。

【全体総括】

感染症対策が日常的に通常の業務範囲として行える様になった令和3年度は、如何にしてお客様の楽しみを継続しつつ、増えた業務を今までの人員でこなしていける現場体質にするかが課題となりました。消毒やスタンダードプリコーション、環境衛生確保の徹底をしていくための時間を確保するために、業務の無理・無駄を省いていくための記録の電子化やインカムの導入拡大を行い、業務効率改善を行いました。また、感染症発生からのクラスターはお客様やご家族だけでなく、施設にとっても影響の大きい事柄であると捉え”持ち込まない”事”早期対応・早期終息”に向けた行動を心掛け、毎週PCR検査を実施しつつ、体調不良職員の報告・連絡を抜けや漏れの無い様に管理していく事でクラスター化する事無く活動する事が出来ました。

採用については、高校・大学卒合計で法人全体で14名の新卒を迎え入れる事が出来ました。中途採用はブロックでの連携を深めるため、チームスを活用した情報共有を行いつつ、採用しやすいエリアで集中的に人を集めつつ、採用が難しい施設に応募者や既存の職員を回すなど、相互にフォローや連携が取れる体制を構築いたしました。

実地指導がコロナ発生来行われておりませんので、自主点検をグループ・法人で実施し、実地指導同等レベルでの適法な運営確認を実施しております。介護保険法や道路交通法の改正など、情報収集と共有をこまめに行いながらお客様だけでなく、職員も安心して働ける施設運営を行って参りました。結果として、職員満足度調査では基準の数値を上回るスコアとなりましたが、同時に組織として中堅層職員のレベルアップが課題である事も見えてきました。

組織の底上げをするため、全職員が変化を恐れず成長に向けてチャレンジできる2022年度にして参ります。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R2 実績	97.4	96.9	96.2	97.1	97.9	97.2	98.5	95.9	94.1	95.1	92.8	95.9	96.3
	R3 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	R3 実績	96.7	97.2	97.1	96.7	98.5	96.1	98.6	97.3	96.5	97.1	97.2	96.4	97.1
短期	R2 実績	94.3	94.1	93.2	96.3	97.4	98.0	95.2	97.8	89.9	96.3	97.3	95.1	95.4
	R3 目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	R3 実績	95.8	99.1	105.2	108.4	107.3	106.6	104.5	110	102.7	102.6	103.5	105.1	104.2
通所(鎌)	R2 実績	86.8	86.8	96.0	91.6	91.5	94.7	100.0	93.4	88.9	85.5	88.0	90.3	91.1
	R3 目標	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
	R3 実績	85.8	84.8	90.2	90.3	91.8	93.7	89.9	91.3	96.8	95.3	93.3	91.4	91.2
居宅(件数)	R2 実績	36.0	38.0	38.0	38.0	36.0	35.0	34.0	36.0	33.0	32.0	32.0	25.0	34.4
	R3 目標	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0
	R3 実績	42.0	41.0	44.0	41.0	39.0	42.0	41.0	42.0	40.0	39.0	38.0	39.0	40.7

2021年度 行徳翔裕園 事業報告

施設基本方針

身体だけの健康ではない3T（メンタリティ・フィジカルティ・ソーシャリティ）を大切に、『美と健康』を目標に裕な心と美しさを育みます。

施設年度目標

1. 基本方針に向けた企画の実施とGG式マニュアルの実践
2. 理念浸透と組織力の強化・離職率の低減
3. 理念ビジョンに合致する採用活動
4. 人員配置目標を守り、IT活用や導入での業務改善
5. お客様のご要望に伴う収益力向上
6. 地域貢献に向けた活動の発足

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【軽費老人ホーム】

年間稼働率97.1%（目標98.0%・対目標-0.9%・前年度比-2.1%）

入居22件・退居19件と入退居件数が多く、また入院も前年度9件から本年度17件と増えました。待機者の確保が追い付かず、自費サービス利用6件の内4件を介護保険へ切り替えましたが、空床日数が平均-9.6日と抑えられませんでした。入院について、転倒骨折による入院は2件と少なかったものの、退院調整・転院判断に時間を要して長期化するケースがあり、平均入院日数が18.4日となりました。入院先と密な連絡連携を図り、迅速に対応して入院の長期化を防ぎます。入居についても、デイサービスご利用者や居宅介護支援事業所、医療機関へ情報を発信し、自費サービスを活用して空床日数を抑えます。

GG式ケアマニュアル

GG式転倒予防プログラムに取り組み、目標としていた転倒事故前年度比40%減（前年度145件、本年度85件）を達成しました。引き続きプログラムを進め、安全の確保と空床発生防止に取り組みます。

「美と健康」

月替わりで健康茶を取り入れ、習慣化しました。今後はその効果に着目し、便通改善や下剤の減薬にも繋げていきます。聖心美容クリニックとのコラボでは、3回の合同勉強会の後にボディクリームを導入しました。現時点では明確な変化を確認できませんが、継続して丁寧に塗布していくことで、お客様の美肌を実現します。

「IT機器を活用した業務改善」

大浴場入浴リフトのデモをおこないましたが、大浴場での入浴から個室での入浴に変更し、お好みの入浴剤でゆったりと個別でバスタイムを楽しんでいただいています。今後は個室・移乗・移動などで活用できる機器導入を検討します。

【通所】

年間稼働率98.2%（目標98.0%・対目標比+0.2%・前年度比+3.6%）

第1四半期では目標未達となりましたが、空き情報だけではなくお客様の担当ケアマネジャー毎に、毎月のご様子や笑顔を全面に掲載した広報誌を営業ツールに加え、毎月の居宅訪問時に情報提供と収集をおこないました。また、営業ツールを活用したことでケアマネジャーとの話す機会も増え、紹介がコンスタントにあり登録者数100名前後を維持し、稼働を安定させることができました。新規登録については問合せがあるものの、全曜日が定員を満たしている日が多く、空きが出た日のみでのご利用の条件付き登録となることで、ニーズに合わず契約に至らないこともありました。毎月月初にショートステイや通院などでの確定休みと当日休数(月平均60名)予測を立て、日ごとの利用可能人数に合わせて条件付き登録者や、行事などでの追加で利用を募るなど柔軟な利用人数の調整をおこなったことで、年間目標98%を達成することができました。

「美と健康」

美と健康についての取組みは、ケアマネジャーとの話題にもなりました。また、ご家族様より便通が良くなったという話も聞かれ、今後も継続していくことで体質改善や話題作りに繋げていきます。聖心美容クリニックとのコラボによるスキンケアでは実際に肌つやが良くなったと実感する声もありましたが、頭皮ケアでは改善を実感するには至っておらず、継続してケアグッズを使用していきます。また、月替わりの季節の変わり湯や健康茶で、優雅なバス・ティータイムを楽しんでいただきました。今後もより楽しみながら、スパのような特別感を感じていただける雰囲気づくりをします。

「くつろぎスペース」

足浴やゆつくりとくつろげる場として、個室をイメージしたプライバシーに配慮した空間を作りました。今後も大胆なリメイクをおこない、お客様がワクワクと特別感を楽しんでいただけるサービスを提供します。

【全体総括】

「基本方針に向けた企画の実施」

基本方針に基づいて美と健康を意識した薬膳料理を通所、入居、職員食でも月2回提供しています。また、おやつや行事などでも身体に良いとされる食材で内面からアプローチしました。

「理念浸透・組織力の強化・理念に合致する人材採用・離職率低下」

四半期ごとの全体会議の開催はできませんでしたが毎日、朝、夕のミーティングでのクレド唱和、年2回の派遣職員を含めた全職員へクレドシェアリングデイ開催し理念の浸透をはかった結果、目標に掲げた理念に共感した派遣職員4名を直接雇用にて切替る事が出来ています。また、雇用面接や新入職員研修、定期的な職員面談で理念やビジョンの説明をしています。

「ご家族様や地域に向けた活動」

健康栄養保健室では、ご家族より通所をご利用されているお客様のお食事のご相談や生活習慣に対するご相談がありました。地域に向けた活動では365日継続しておこなっている除菌水無料配布が定着しています。また、訪問医と協力しコロナワクチン接種をデイサービスのお客様、ご家族様、職員の家族や地域の方々におこなっています。

リモートでの保育園児さんとの合同体操や、通所と入居のお客様と職員が合同でリモート対戦運動会を開催しています。

コロナ禍だからこそ新たな発想で、企画・実施をすることができました。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
軽費	R2 実績	98.1	99.0	100.0	100.0	99.2	99.4	99.7	99.6	98.9	99.4	98.6	98.2	99.2
	R3 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R3 実績	97.9	95.4	94.2	99.2	98.9	100.0	99.2	95.3	95.1	95.0	95.4	99.9	97.1
通所	R2 実績	94.4	98.2	99.9	99.9	99.9	99.8	99.0	99.1	98.0	98.2	57.7	91.5	94.6
	R3 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R3 実績	96.3	93.0	96.3	97.5	99.9	99.9	99.8	99.9	99.9	98.0	98.2	99.9	98.2

2021年度 いちかわ翔裕園 事業報告

施設基本方針

Restart

～お客様の安らぎと満足度向上のために心を寄せ合う～

施設年度目標

1. 新組織による体制強化と職員満足度向上
2. 新しい生活様式に合わせたお客様満足度向上
3. 適正な施設運営

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】

管理課 相談部門

目標稼働率98.2%に対して年間平均98.5%と達成となりました。第一四半期は長期入院者が3名出たことに加え、入居待機者の書類の整備、営業方法の見直し等に追われ大きく内定待機者確保に難航し稼働率を落としましたが、第二四半期より営業会議を毎月行うことで、申し込み件数や問い合わせの増加に繋がり、稼働率も向上となりました。今後も、毎月営業会議にて効率のいい営業活動ができるよう、スケジューリングをして各事業所と信頼関係を構築し、待機者確保に繋げていきます。お客様の満足度向上に向けた取り組みとしては、お客様が自分の家と同じような気持ちで過ごして頂けるように、自身の好みの家具や雑貨を持参して頂くようご家族に声掛けを行い、やすらげる居室作りを行いました。またお客様とご家族の意向を尊重出来るよう、個性や情報収集を積極的に行い、個別援助計画書とケアプランの連動性の強化に努めました。今後も引き続き、お客様一人ひとりに合った個別ケアの実践に努めていきます。入院者については、9月より嘱託医師と薬局を変更し、医療と介護の連携を行い、日々お客様の健康管理と看取りケアの充実を図ることができました。引き続きお客様の状態を把握して、早期発見・早期治療をすることで、稼働安定に繋げてまいります。

介護課

お客様が自律した生活を送れるように個別ケアの充実を目的とし、一部ユニットをモデルユニットとして、業務マニュアル・個別援助計画書・24時間シートの見直しや、お客様の生活リズムに沿ったケア、ユニット共用部分の設えの見直し、変更に取り組みました。さらには他ユニットでもマニュアルの統一を行い、個別ケアの実践を行いました。課題として、モデルユニットとしての役割をしっかりと行うこと、また他のユニットの設えの充実となります。今後は他ユニット共用部分の設えやお客様一人ひとりの居室環境を整えていけるよう、介護課と相談部門、そしてご家族が連携し、実践してまいります。ICT・IOT技術と福祉用具の活用については、各協力ユニットにスライディングボートとスライディングシートを配備し、フレックスボード、リフトも連携して活用ができる環境作りを行いました。引き続き、多職種で福祉用具を使用するお客様を選定し、お客様と職員双方の負担を減らしていけるよう、研修等で職員の技術向上を行ってまいります。

管理課 栄養部門

今年度は、日々の食事を美味しく楽しく召し上がって頂けるよう、お客様のニーズに沿った食事の提供に力を入れました。毎月の季節の行事食だけでなく、さまざまなバイキングレクを実施してお客様が自分で選ぶ喜びや楽しさを感じて頂くことで、自律支援に繋がりました。また食事形態や配膳方法を見直し、盛り付け等の時間を短縮が毎食15分程度できたため、食事介助や経口維持、口腔ケアの強化に企てることができました。サービス向上の為の加算取得については、訪問歯科との連携を強化し嚥下状態の確認と口腔ケアの質の向上、ケアの統一を図り、下半期より経口維持加算を取得しました。今後も最後まで安心して食事を楽しんで頂けるように様々な取り組みを実施して、お客様の満足度に繋げていきます。

管理課 医務部門

9月より嘱託医師と薬局を変更し、往診方法や薬の見直し等を行いました。また、服薬マニュアルの作成や薬棚の保管方法を決めて、誤薬・服薬忘れの予防に努めました。コロナウイルスの感染症対策として感染症対策BOXの準備、体調不良時のフローチャートの作成、感染症予防の研修を実施しました。今後も多職種と連携し、お客様の健康状態の把握と情報共有を徹底して、早期発見・早期治療して入院者を減らして参ります。

【全体総括】

稼働率においては、目標達成となりました。課題であった待機者の確保と入居までのタイムラグについては今年度良い形を作ることが出来た為、引き続き毎月営業会議を実施して対応して参ります。医療と介護の連携強化を行い、多職種がお客様の健康状態をしっかり把握した結果、入院者は月平均48日(1.6人)となりましたが、3月末より持病悪化等により入院者増となっているため、引き続き、一人ひとりにケアについて見直し改善していきます。また今年度は23名のご逝去や退去者がありましたが、9割以上を施設でのお看取り対応となりました。今後も看取りケアの質を向上させ、お客様とご家族が安心して終末期を迎えられるように丁寧な説明と対応をして参ります。職員状況については、新組織による体制強化と職員満足度向上を目標に職員役割の明確化とクレド浸透に動き、人員配置の見直しを行った結果、派遣職員を8名削減することが出来ました。しかし、新たな直接雇用職員の獲得が上手く進まなかったため、今後は職員採用に向けて新たな媒体や採用ツールを新規開拓していくことに努めて参ります。また今後は、各部門の体制強化と核となるリーダーの育成に力を入れて、職員一人ひとりが責任と自覚を持って、積極的に行動できる組織作りを行ってまいります。コロナ禍で制限を課されることもありましたが、地域との繋がりを少しずつ再開させ、これからもお客様の為に何が出来るか、何をしたいかを常に考えて、お客様目線でのケアと満足度向上に向けて行動して参ります。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R2 実績	97.3	99.5	98.8	99.4	98.8	97.4	97.7	99.8	98.5	98.1	98.8	97.3	98.5
	R3 目標	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2
	R3 実績	97.3	97.4	97.6	97.0	99.5	99.2	99.9	99.4	98.6	99.1	98.1	99.3	98.5

2021年度 かしわ翔裕園 事業報告

施設基本方針

Do The Best !
今出来ることにベストを尽くし、愉快で明るく楽しい施設を作ろう！

施設年度目標

- ①各事業の目標稼働、予算達成とPDCAサイクルの実践。
- ②新組織基盤を形成、細分化することで効率化を図り、ご利用者への生きがい支援を行う。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【サービス付き高齢者向け住宅】（目標96% 対目標比+1.8% 対前年比+1.6%）

- ・入退去により入れ代わりが少なく年度を通して2名のみと変動が少なかったことで稼働が維持されたが、以前として待機者を確保することができておらず、新規入居までのタイムラグが発生している。
- ・平均介護度2.6（前年比+0.3）となりケア増加と非定時の対応を伴う機会が多く、重度化対応を強化している。
- ・施設内での日々の活動は行っていたが、お客様の状態の変化に伴う非定時でのケアが増加することで、個々の生きがい支援活動まで発展的な活動展開を行うことが出来なかった。

【住宅型有料老人ホーム】（目標95% 対目標比-0.1% 対前年比 +2.6%）

- ・長期入院者を防ぐことが出来たが、入れ代わりのタイムラグが2週間～1か月となり稼働減、すぐの待機者が確保されていないことで退去申込みからの動き出しで新規入居までの日数が経過している。
- ・記録やチェック方法などを追加、フォーマル、インフォーマルなケアをミックスしその方に必要なケアを届けることが出来ているが、状態の変化に即応することや個別活動までに発展出来ていない。

【通所】（目標93% 対目標比+2.8% 対前年比+7.6%）

- ・毎月の営業活動による新規獲得により曜日登録者は上限となっており、キャンセル待ちの状態、急なキャンセル分を追加等でのイベント開催によりフォローアップする活動を年間通じて行い目標達成となっている。
- ・コロナの影響による欠席もあるが、唯一外出先がデイという方も少なくともご利用を楽しみにして下さっている。活動面でも新たなオンラインイベントや個々の嗜好に寄り添う活動を行い安定的な運営を行うことが出来た。

【訪問介護】（目標3954件 対目標比+194件 対前年比+251件）

- ・入居が安定、個々の身体状況の変化に応じサービスを追加することで目標件数を上回り、報酬も確保することが出来た。要介護度の上昇に伴う体制の強化と連動し介護サービス量（件数）を調整している。
- ・訪問/入居部門として管理を一元的に行われ、2フロア間で対応できる人材の育成を行い対応力の強化とシフトの効率化を達成しているが、変化に伴う職員間で意思の相違が生じている。お客様へサービスを届ける人員の育成や指導に大きな課題を残している。
- ・人員確保については退職や休職に伴う補充で派遣職員が中心となっている。また派遣職員の入れ替わりが早く指導に時間を要し、人員が安定せず常時不足といった状況であった。

【居宅】（目標40件 対目標比-12.8件 対前年比+2.7件）

- ・併設訪問介護と連動し、ご利用者の状態の変化に合わせた申請や短期間でのアセスメントを行い、支援に必要なプランを作ることが出来ている。下期から居宅専任を設け、外部新規も増加、地域と連携を図り支援を行っている。
- ・必要な社会資源を活用することで介護保険以外で個別のニーズに応えることが出来る様に体制を整えている。

【全体総括】

施設全体の稼働状況では入居は退居から入居までのタイムラグあるも目標値を達成、通所は登録者も上限に達しており通年において安定した稼働を達成している。人材については、退職休職に伴う補充が派遣職員となり入れ替わりの回転が速く人員が安定しない、または不足している状態が続いていた。また入居部門としては管理を一元化し業務構築を実施、職員の配置転換を含めサービスの均等化を図ることで、対応力強化と効率化を図っている。住宅、訪問介護、通所介護の主要3事業が通年で安定した稼働を行えたことで3期連続での黒字となっているが、派遣人件費の高騰や人員の定着や教育、接遇などに課題を要している。次期、主任管理者を主軸とした管理体制を築き、発信力を強めることで職員一人ひとりがレベルアップしお客様へのサービス向上に起因出来る様に指導を実施していく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サ高住	R2 実績	96.4	96.0	96.5	100.0	98.8	92.3	92.0	92.0	99.0	96.8	96.0	98.0	96.2
	R3 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	R3 実績	98.0	99.0	98.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.9	96.5	92.0	92.0	97.8
有料	R2 実績	94.7	94.5	97.4	96.5	93.3	89.3	88.0	92.0	92.0	88.0	90.0	92.0	92.3
	R3 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	R3 実績	90.0	96.0	94.0	94.2	95.8	96.3	95.8	96.0	95.6	93.4	92.0	100.0	94.9
通所	R2 実績	74.8	72.1	90.0	90.0	81.0	83.0	96.3	92.0	93.0	94.8	96.0	95.5	88.2
	R3 目標	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0
	R3 実績	96.0	95.3	94.8	93.7	95.9	96.3	99.4	95.8	95.6	95.0	96.3	95.0	95.8
訪問介護 (件数)	R2 実績	3847.0	4058.0	3947.0	4221.0	4090.0	3671.0	3721.0	3587.0	4099.0	3913.0	3760.0	3860.0	3897.8
	R3 目標	3900.0	4030.0	3900.0	4030.0	4030.0	3900.0	4030.0	3900.0	4030.0	4030.0	3640.0	4030.0	3954.2
	R3 実績	3873.0	4114.0	4061.0	4143.0	4414.0	4301.0	4328.0	4230.0	4208.0	4049.0	3678.0	4386.0	4148.8
居宅(件数)	R2 実績	24.0	24.0	25.0	25.0	24.0	25.0	24.0	24.0	25.0	25.0	24.0	25.0	24.5
	R3 目標	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0
	R3 実績	24.0	25.0	25.0	24.0	27.0	26.0	26.0	27.0	27.0	27.0	35.0	33.0	27.2

2021年度 ふなばし翔裕園 事業報告

施設基本方針	
更なる挑戦～ミックスアップ～	
施設年度目標	
1. 介護ロボットの導入と医療ケア体制の充実によるお客様及び職員の満足度向上 2. 市川・船橋エリアでの連携強化による運営体制の構築と業務の効率化	
重点項目に対する実績報告(各事業ごと)	
<p>【特養】 年間平均稼働率 95.66% (目標97% 対目標比 -1.34% 対前年比 -0.36%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標稼働率達成できなかった。 要因①体調不良者が多く、短期入院者が続出し長期入院者も年間12人、施設内での急逝が4名と稼働率の低下 ②実調の直接面談ができず書面でのやり取りになる事が多くなり、入退所のタイムラグが出てしまった ・特養入居の入院者の居室を短期入居にて空床利用することで、施設総稼働率98%の目標達成を目指し調整をするも、夏冬の特養の稼働率が影響し目標未達成となる ・船橋エリア(在宅、入居)の連携により居宅のケアマネから特養へと繋がるケースが増え、新規申し込みに繋げることができた ・近隣に特養がオープンし、令和4年にも新規オープン施設がある事から、待機者のキャンセルや待機者確保も困難となる中でも、感染症対策面や行事への関心等で当施設を選ばれる方も多くなった ・看護、介護と連携し自律支援に向けた生活リハビリをケアプランに落としこむことができた。評価方法等の共有を行い加算取得に向け活動することができた <p>【短期入所】 年間平均稼働率 106.5% (目標100%以上 対目標比 +6.5% 対前年比 +8.02%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標稼働率達成となった。要因の一つ目は、年間新規登録者数32件、目標月2件に対し平均2.6人と目標達成となった。二つ目は特養空床を最大限活用しキャンセル待ちを多く確保出来た事により稼働率が向上した。 ・コロナ禍で訪問営業禁止をする居宅もあったが、可能な限り月初に実績を居宅ケアマネへ直接手渡ししお客様の利用中の様子を伝えたり、広報誌を配布することで情報共有と共に新規依頼の営業を行った ・職員の心遣いの対応にお客様が喜ばれ、家族が安心し、利用後の「楽しかった」の言葉をケアマネが聞くことでケアマネからの評判が高くなり、高評価を職員へ伝えることでハッピーウイルスを広げることが出来た <p>【訪問介護】 年間平均訪問回数 581回(目標410回 対目標比 + 171回 対前年比 + 179回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標訪問回数達成となった。要因の一つ目は職員増員に基づき、サービス件数を大幅に伸ばすことが出来た。二つ目は夫婦抱き合わせによるサービスの増加で、効率性をあげる事が出来た。 ・ヘルパー職員に対しサービス同行や職員育成をサ責二人体制でおこなうことでサービスの質の向上に努めた ・コロナの終息が見えない状況下ではあったが、市川、鎌ヶ谷エリアに積極的に営業展開をおこない、特に鎌ヶ谷エリアでは総合事業を受け入れていることで、新規依頼が継続的に来るようになった <p>【通所】 年間平均稼働率 90.33%(目標93% 対目標比 -2.67% 対前年比 -1.07%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標稼働率未達成となった。 要因 ①各月終了者が発生する一方で、新規獲得者数が目標達成せず、実稼働登録者が大幅に減少してしまった ②長期利用をしていたお客様のADLの低下による転倒や入居等で利用終了が相次いで発生してしまった ・上半期中は、曜日別登録者数は安定していたものの終了者が続出し、それに対し新規獲得者が大きく伸び悩み稼働を落とす結果となる。登録者が少ないため、イベント企画追加などのスポット利用にも限りがあった ・新規獲得の為、営業件数を大幅に伸ばすも新規獲得に中々繋がらない状況の中、施設見学者や問い合わせが成約に繋がらないケースが増えている為、次年度はこちらを重点的に改善を図り確実な新規獲得へとつなげていく <p>【全体総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間稼働率目標に対して、ショートステイ、訪問介護が達成。特養、つかだについては未達成となる。昨年同様コロナの影響がある中で、ショートステイ、訪問介護はご家族やケアマネとの日々の関係性構築及び柔軟なニーズ対応等が結果に繋がっている。また、特養においても入院者が発生した際の柔軟な対応や密な情報共有、連携により総稼働の維持に努めることができた。デイサービスでは、新規獲得に伸び悩みコロナの影響を大きく受ける中でも、日頃の取り組みや感染症対策の徹底により、既存のお客様が長期的にご利用下さる一年であった ・特養介護課においてはノーリフティングケアの推進を重点目標とし活動をした一年。既存の福祉用具の推進は当然のこと、介護用リフトや福祉機器を新たに導入し実践してみることができた。次年度は、それらの機器を確実に使用すること、介護ロボットを使用したケアを標準化することを目標とします ・今年度ふなばし翔裕園の組織が大きく変化しスタートした一年の中で、職員満足度調査等を通して様々な課題を明確化する事ができた。ふなばし翔裕園として在宅部門と施設部門が一体となり活動する2年目としても、連携を強化し体制の構築と業務効率を高めることができ、いちかわ翔裕園や他施設との連携においても、採用活動を始め、ブロック一体として見ていく、動いていくという意識づけができた一年であった 	

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R2 実績	94.6	95.7	97.3	97.1	94.3	94.8	94.2	96.5	97.7	96.3	95.0	98.8	96.0
	R3 目標	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0
	R3 実績	97.4	96.6	95.0	95.0	93.5	94.7	97.5	98.3	95.6	91.6	96.9	96.2	95.7
短期	R2 実績	94.0	97.4	99.7	95.5	94.8	103.7	98.7	99.0	95.8	96.8	106.8	100.3	98.5
	R3 目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	R3 実績	101.0	106.8	106.7	110.0	113.9	110.3	102.6	99.8	107.1	103.2	107.5	109.0	106.5
訪問	R2 実績	363	392	403	417	360	372	419	419	417	413	434	424	402.8
	R3 目標	400	420	400	420	420	400	420	400	420	420	390	420	410.8
	R3 実績	436	492	491	562	584	578	650	650	684	627	565	663	581.8
つかだ	R2 実績	95.6	98.8	97.9	92.3	88.2	91.7	91.2	94.2	101.2	83.7	92.0	86.8	92.8
	R3 目標	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0
	R3 実績	92.0	84.6	92.9	93.1	93.4	93.4	93.4	92.9	90.1	88.9	83.0	85.7	90.3

2021年度 香流川翔裕園 事業報告

施設基本方針

主体性と創造力を高め私たちのサクセスストーリーを完成させよう

施設年度目標

1. 経営の安定化
2. 失敗を恐れず挑戦する、保守的な行動から革新的な行動への転換
3. 地域との繋がりを意識した活動の拡充

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】 年間平均稼働率 96.5% (目標95%)

- ・8月から10月にかけて入院者が多く、退居後の新規受け入れにタイムラグが発生したことで一時的に稼働率が低下しましたが、目標稼働率を達成することができました。
- ・体調不良者への対応の遅れや職種間の連携不足から入院者が増加したため、医務部門の強化を図りました。また、上期は入居を希望する待機者を小規模多機能に確保できなかった期間がありましたが、下期は近隣居宅や病院等への営業活動にて、小規模多機能を利用する待機利用者を常時3名前後確保し、稼働率の低下を防止しました。
- ・介護職員の自主性を尊重し、過去の実績にとらわれない新たな発想で各種イベントを計画し、お客様に楽しんで頂く事ができました。チームの結束力強化と職員個人の成長に繋がり、全体のスキルアップと離職者ゼロを達成しました。
- ・記録の電子化や業務の見直し、職員の適正な配置により残業費用を削減できました。(前年比約-107万円)

【グループホーム】 年間平均稼働率 98.1% (目標98%)

- ・主治医や訪問看護との連携により入院者を削減し、目標稼働率を達成することができました。また、退居者4名のうち3名を施設でお看取りしました。看取りケアに初めて関わる職員が多い中で不安を抱える職員も多くなりましたが、勉強会や訪問看護の協力により、安らかに看取ることができました。
- ・転倒事故により骨折し、入院加療を必要とするお客様が複数発生しました。入院期間の長期化による認知症の進行を予防するため、医療連携にて施設でリハビリを実施することで最短での退院となるよう支援しました。2022年度はGG式転倒予防プログラムを浸透させることで、転倒事故発生を防止します。
- ・ユニットのキッチンでお客様のリクエストをもとに、月2回のペースで調理を実施しお客様に家事に参加して頂きました。お客様が家事活動に参加する機会を増やすため、週1回以上実施できるよう業務の見直しを致します。

【小規模多機能】 年間平均稼働率 75.0% (目標80.0%)

- ・訪問サービスを中心としたサービ体制の構築を目標に活動しましたが、通い・泊まりサービスの利用希望者が多く、利用回数を増加させることができませんでした。登録者常時20名以上と目標稼働率を達成することができませんでした。
- ・入居待機利用者確保の目標を常時3名として活動致しました。上期は体調が不安定な方が多く入居を前に登録解除となるケースが複数発生したことで入居の稼働率へも影響を及ぼす結果となりました。下期は居宅や病院等への営業により待機利用者を安定して確保することができました。
- ・毎月80件以上を目標に営業活動を実施しました。地域包括には週一回ペースで訪問し、関係性を深め紹介を得られるように活動致しました。昨年度より粘り強く訪問営業を行い、地域包括からの紹介案件を新規登録に繋げる事ができました。
- ・近隣事業所からの相談に頼らず地域住民から直接相談を受け付けられるように、介護相談室を開設しました。介護相談の電話や面談にて地域の高齢者の介護に関する不安の聞き取りや介護サービスの案内を行いました。
- ・通いサービスではレクリエーションのバリエーションを増やし、毎月の創作活動を選択制に変更しました。創作した作品はご自宅に飾ったり、日常生活で使用できる実用性のある物をご用意し、お客様に楽しんでいただくことができました。

【全体総括】

特養、グループホームについては目標稼働率を達成しましたが、小多機の登録者を増やすことができず、予算を達成する事ができませんでした。待機者確保と小規模多機能の営業活動を一括して実施しましたが、訪問中心に利用する新規獲得に苦戦し、新たな相談ルートの獲得のため地域住民から直接相談を受け付ける場として介護相談室を開設しました。感染症の影響で地域活動に参加する機会が少ない中で地域の高齢者と直接交流する事ができ、契約にも繋がりました。また、施設周辺の清掃活動に取り組み、コロナ禍であっても可能な地域活動に意識的に取り組むようにしました。職員教育においては各種イベントの企画や委員会活動において職員が主体的に考えて実行に移せるよう支援しました。現場主義の浸透に繋がり、3月に実施した音楽フェスではお客様と職員と一緒に楽しむ姿を見ることができました。新人教育体制の整備のため指導マニュアル作りに取り組みましたが年度内に完成させることができなかったため、次年度も継続して取り組みます。新人個別の能力に即した研修計画を立てる事により早期離職を防止できていますが、研修期間中の人件費の削減が課題となっています。研修期間を短縮できるように指導方法を見直して参ります。経営を安定させるためには小規模多機能の登録者を定員まで確保することが不可欠であるものの登録者数が横這いの状態で今年度を終える結果となりました。しかしながら、地域活動を積極的に行っていることで、地域における香流川翔裕園の認知度は確実に上がっています。2022年度はより一層地域活動に力を入れて取り組み、地域で頼りにされる施設を目指して活動いたします。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R2 実績	100.0	95.0	93.0	93.1	95.3	97.9	99.0	96.5	93.2	94.7	97.5	100.0	96.3
	R3 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	R3 実績	96.2	98.1	95.0	99.0	96.9	86.8	88.5	99.5	100.0	99.5	100.0	98.0	96.5
GH	R2 実績	94.3	97.1	100.0	100.0	100.0	96.9	99.6	100.0	99.5	96.2	98.4	100.0	98.5
	R3 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R3 実績	100.0	100.0	98.3	100.0	96.1	97.6	93.0	100.0	98.9	98.4	97.2	97.0	98.0
小多機	R2 実績	67.5	72.2	69.7	72.7	79.2	85.2	79.8	78.7	86.5	78.8	74.7	89.2	77.9
	R3 目標	80.0	80.0	80.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	87.5
	R3 実績	93.8	77.4	74.0	64.0	68.0	65.3	74.7	71.5	82.1	75.8	71.0	82.3	75.0